

土岐頼兼墓（ときよりかねのはか）

ページ番号1002349 更新日 令和2年2月17日



土岐頼兼は、室町幕府の初代美濃国守護となった土岐頼貞の十男といわれ、兄の頼遠が家督を継いで長森（現・岐阜市）に移った後、土岐町に所在する鶴ヶ城（神籠城）の城主となったと伝えられます。

正中元年（1324年）、鎌倉幕府を追討して王政復古を望んだ後醍醐天皇は、側近の日野資朝、日野俊基らと謀って密かに兵を募りました。

この挙兵に応じた頼兼は一族の多治見国長、船木頼春、深沢定氏、尾里国定、萩原国実、猿子国行、市原国宗らを率いて京都に上がりましたが、一族の土岐頼員が不用意に妻（六波羅探題奉行・齊藤利行の娘）に漏らした一言から幕府方の知るところとなり、六波羅探題からの急襲を受けて一族は討ち取られ、企ては失敗に終わると伝えられています（正中の変）。

討ち取られた頼兼の首は京都の三条河原に晒されていましたが、家臣の根竹十郎がこれを奪って帰り、自らの館、根竹集落（現・土岐町桜堂）の見える高台に頼兼の首を葬り、自刃したといわれます。

頼兼の墓は、鶴ヶ城の北東約500メートルの自刃洞と呼ばれる山中に所在し、宝篋印塔2基と五輪塔3基が残されています。

なお、土岐頼兼に対しては、明治38年（1905年）に正四位が贈位されて名誉回復がなされ、昭和24年（1949年）には鶴ヶ城の山頂に頼兼を祭神とする土岐神社が創建されました。

[鶴ヶ城跡（つるがじょうあと）](#)

指定番号	瑞史7
指定年月日	昭和30年11月6日
指定の別	市指定文化財
種別	記念物
類別	史跡
時代・年代	室町時代
員数他	1箇所
所在地	瑞浪市土岐町2752番地
所有者・管理者又は技術保 持者	瑞浪市

このページに関するお問い合わせ

みずなみ未来部 スポーツ文化課

[お問い合わせは専用フォームをご利用ください。](#)

歴史文化係 化石博物館 電話：0572-68-7710

歴史文化係 市之瀬廣太記念美術館 電話：0572-68-9400

歴史文化係 陶磁資料館 電話：0572-67-2506

スポーツ推進係 市民体育館 電話：0572-68-0747